

2017 年 7 月 10～12 日にコロンビアのメデジンでコロンビアコーヒー生産者連合（FNC）が第一回世界コーヒー生産者会議を主催しましたが、当初 500 人を予定していた参加者が、元米国大統領ビル・クリントン氏などの大物の出席なども手伝い最終的には 1300 人にまで膨れ上がり盛会だったようです。日本企業からも全協横山会長、柴田副会長を含む 20 人ほどが出席しましたが、同会議の内容が FNC のホームページに連載されていますので会議の時系列に沿い邦訳をお届けします。尚、この会議の様子は You Tube に動画が貼り付けられていますので、ご興味のある方は『Coffee producers forum』と検索してご覧ください。

Medellin, Colombia, July 12, 2017(FNC 広報)

（１）7 月 11 日（火曜）開会式

第一回世界コーヒー生産者会議の開会式では、コーヒー生産国が声を揃えてコーヒー生産者の持続可能性（Sustainability）に向けて世界のコーヒー産業関係者が共に行動するように呼びかけた。

『もしコーヒー農業が利益を得られる経済活動でないなら生産者にとって全バリューチェーンが意味のないものである。即ちもし原料がなければチェーンそのものが存在しないという意味である』とコロンビア大統領フアン・マヌエル・サントス氏は述べた。

サントス氏は、世界のコーヒー市場で徐々に寡占化が進むに従い、バリューチェーンの相互関係性の深さ故に、市場がより脆弱になってきているということを強調した。『コーヒー生産者、特に小規模農家にとって市場アクセスは益々不利益なものになっている。彼らが不平等な条件のもとでの交渉を余儀なくされている現状を見ると、この非対称（asymmetries）をどうすれば修正することが出来るのか勇気をもって現実的な議論をせねばならないと思わされる』と語った。

『会議が呼び覚ましたこの熱気を見ると、コーヒーチェーンの持続可能性を保障する為に集合的に解決されるべきこれらの問題に対するコーヒー産業全体の関心が高まってきているということが確信できる。我々は解決することが非常に難しい大変な問題に直面している。しかし、我々が一緒になってこの問題に取り組むことができればコーヒーは引き続き我々社会の発展と公正の推進力（driver）として寄与し続けるだろう』と述べた。

コロンビアコーヒー生産者連合（FNC）運営委員会議長のカルロス・アルベルト・カルドナ氏はコーヒー生産者の共通問題を解決する為にその他の生産国に役立ちたいと述べた。『その他を支援しないで自分自身の未来を構築することは不可能だ』と言った。

コスタリカの大統領ルイス・ギエルモ・ソリス氏はコーヒー生産国に存在する多くの共

通点として、彼の国でもコーヒーが『静かで公正な農地改革』を行う上での地方発展の推進力になっていると語った。

彼は参加者及び広く社会全体に対し、コーヒー生産者の生活水準向上から始め、コーヒーの全チェーンの持続性を保障することが重要だとし、『貧困ではなく富を分配しよう』と言った。

『世界の 25 百万コーヒー農家が政府と市場に対し彼らのニーズにもっと注目するよう要求している。我々が求めているのは補助金や慈善ではなく、支援である。コーヒー農業の持続性の確保は全体責任で行う必要がある』と言った。

ホンジュラスの大統領オスカル・オルランド・エルナンデス氏は生産者の利益を守るために共同戦線（common front）を張ろうと生産国の参加者を鼓舞した。また国際コーヒー機関（ICO）に挑戦するのではなく、イニシアティブの精神でコーヒー生産者の公正な取引条件の取得に向けお互いの努力を補完し（complement）、関連付けよう（articulate）と述べた。

エルサルバドルの副大統領、オスカル・オルティス氏は、持続的で集合的な努力ができるようコーヒー産業が必要とする仕組みを作るための会話が開始された第一回コーヒー生産者会議の重要性について言及した。

オルティス氏は、コーヒーは移民や貧困問題の軽減に役立っているとし、同国のコーヒー生産復興に関する国内条例について触れ、生産者が直面する問題を解決するには協働することが重要だと話した。

国際コーヒー機関（ICO）は既に生産者の持続性に向けた活動を開始している。

ICO の事務局長、ジョゼ・セッチ氏は、ICO は生産者の持続可能性を促進するために新アクションプランや詳細な統計資料作成などを含む組織活動の見直し（reviewing）を行っていると異なった角度のイニシアティブを紹介した。

彼は ICO 加盟国が、コーヒー小規模農家の生活から始め、コーヒーバリューチェーンの持続的な発展に貢献する必要性があることを理解していると述べた。

また彼は、多くの持続可能性イニシアティブは社会面と環境面にのみ焦点を当て、経済的持続可能性について無視されてきたことを認識しているとも語った。

以上

（２）米国元大統領ビル・クリントン氏、コロンビア大統領フアン・マヌエル・サントス氏、司会者 FNC ロベルト・ベレス・バジェホ氏の三者によるパネルディスカッション

元米国大統領ビル・クリントン氏はサントス大統領の貧困撲滅及び地方開発（rural

development) への努力を評価しながら、コーヒーは地方開発の基礎 (anchor) だと言った。

クリントン氏はコロンビア大統領サントス氏と共にパネルに参加し社会の安定と民主主義を促進するのは経済的持続性と農村開発だと述べた。彼はコロンビアの国内テロリストとの平和条約締結後のシナリオとしてコーヒーが地方開発の引き金 (trigger) になると言い、引き算より足し算の方が、また割り算より掛け算のほうがいいとも述べた。クリントン氏はコーヒーを社会安定の錨 (anchor)、麻薬産業など不法行為の障壁 (barrier) に例えた。彼はコーヒー農家に、コロンビアやブラジルのように生物多様性に富んだ国では、予備収入源としてコーヒー産地でのエコツーリズム開発が選択肢の一つになると語った。

会議の精神に沿った助言としてクリントン氏は、コーヒーの持続性を達成するにはコーヒーチェーン全参加者間の共同責任感を育てるような仕組みを作ることが重要だと話した。更にこの問題を前進させる為にはまず全てを包括 (overarching) する目標を設定し、その後それを下部組織が実現可能な細目に落とし込むことが必要だと言った。

サントス大統領は、コロンビアコーヒー生産者連合 (FNC) が果たしているインフラ投資 (道路、電気、学校、病院) を通じコロンビア農村地域社会の開発を進めながらコーヒー農家の収入増を達成するというその組織的戦略性に祝意を表した。そして『これこそがコーヒーを作らない農村に比べコーヒー生産地域の生活水準が高い理由だ』と言った。

(3) ジェフリー・サックス氏の基調講演

第一回世界コーヒー生産者会議において持続的発展 (Sustainable Development) のエキスパートとして世界的に有名なジェフリー・サックス氏は、『コーヒー一杯当たりの最終消費者価格を僅か5セント上げれば生産者の収入を大幅に改善できる』と語った。

『我々は消費者が少しだけ余分に支払い、生産者も少しだけ受け取る現在のシステムを考え直す必要がある。フェアトレードとは生産者への支払いを削る (cut) ことではない。そのような行為は寛容とは言えないし、充分支払っているとも言えない。』と述べた。

経済学教授で、国際連合上級アドバイザー、ベストセラー作家でもあるサックス氏はコロンビア大学の持続的発展センターや国際連合持続発展ソリューション・ネットワークの理事も務めている。サックス教授に言わせると、『簡単な計算だが、1ポンドのコーヒー生豆で25杯のコーヒーが作れるので、ポンド当たりの価格が1.25米ドルだとするとコーヒー生産者は一杯当たり僅か5セントを受け取っているに過ぎない』と。

彼は一杯の最終消費者価格には内在的なコストが存在することを認めながら、『もし、消費者が一杯当たり5セント余分に支払えば、生産者は現在受け取っている倍の収入を得ることが出来るのである。消費者にとってはわずかな値上げでも生産者にとっては大変な収

入の増加となる。これがフェアトレードである。』と指摘した。

『米国や欧州のような高い購買力のある市場では、この程度の値上げは消費者にとってはなんでもない、特にそれが任意の寄付という形であればそうだ。』

サックス氏は更に、『もし一日一杯コーヒーの消費が増えたとなると、全体では大変な需要の増加となり、それが生産増を促し、国際価格は上昇する』と言った。

彼は国際連合の持続的発展目標（前ミレニアム目標：Millennium Goals）に言及し、コーヒーは地方の発展及び社会福祉を推進するために重要な役割を果たしてきた。『コーヒーは持続的発展目標にとって重要な農作物である』と語った。

最後にサックス氏は、生産者、メーカー、大学間で共通問題を分析し包括的解決策を発見した良い例として、国連の持続的発展ソリューションネットワークに触れた。コロンビアではロスアンデス大学のような研究機関の支援を得てネットワークは拡大していると述べた。

ジェフリー・サックス氏について：経済学教授、世界的に有名な持続的発展エキスパート、国際連合アドバイザー、ベストセラー作家、100 か国以上の独立特約寄稿者。サックス氏は 2015 年度のブループラネット賞（Blue Planet Award）共同受賞者：トップ世界環境リーダーシップ賞

（４）第一回世界コーヒー生産者会議の最終宣言

2017 年 7 月 12 日コロンビアのメデジンで第一回世界コーヒー生産者会議が開催され次の事項が検討された。

1. 多くのコーヒー生産国のコーヒー農家の収益性は、低いコーヒー国際価格による交易条件の劇的な悪化や（コーヒー生産者の購買力の低下）、低い農業生産性、気候変動及び不安定な生産に伴う生産コストの増加、収穫など生産活動に於ける労働コストの上昇などのため、危機的な状況にあり、赤字に陥る年もある。

2. 収益性が低いため、世界のコーヒー生産者の大半が貧困生活を余儀なくされ、生活の質の低下（住環境、公共設備、教育の遅延及び貧困、健康施設へのアクセス不良）に見舞われ、農園への再投資が困難な状況にある。

3. 最近数十年はスペシャルティコーヒーの進展により生産者に幾分かのパremiumが還元されるようになったが、これとても認証費用等を考えると十分とは言えない状況であり、グローバルコーヒーチェーン付加価値分析によると貿易業者、焙煎業者、小売業者の

取り分に比べ生産者の取り分が極めて低い状況である。

4. もし既述のような問題を是正すべく、協力して行動を起こし農家の財政を保証しなければ、中期的には世界コーヒー供給量が継続的に減少するような危機に見舞われることになるだろう、そして、結果として生産者の生活の質及び地域社会の安定性に悪影響を及ぼし、世界需要は伸びるが供給は足りぬこととなり、コーヒー市場に望ましくない不均衡を招き、コーヒーグローバルチェーンの持続性は危機に陥るだろう。

世界コーヒー生産者会議は次の事項を決議する。

1. グローバルコーヒーチェーンの全てのステークホルダーが共同責任で問題に取り組むこと及び IC0 の支援を受けてアクションプランを作るが、そのアクションプランは世界の様々なコーヒー生産地域の農家が抱える問題：即ち生産者にとって非常に低く極度に乱高下する価格、バリューチェーンの大半の利益がその他の輪（link）に偏在すること、気候変動対策、労働不足問題、困難な世代交代、生産者にとって不安定な社会条件等に基礎を置かねばならない。
2. アクションプランでは達成目標、時期、及び必要資金を明確にする。
3. アクションプランの適切な遂行及び必要資金調達の共同責任による約束（commitment）は産業界（industry）、慈善団体（donor）、国際協力機関（international cooperation）、国際機関（multilateral organization）、国及び地方政府のトップレベルの代表間で行われる。
4. アクションプランの為の取っ掛かりとして、また第一回世界生産者会議での提案に基づいて、コーヒー価格の過去 40 年間の動向、同期間の生産コスト及びそれ等の関連性を分析するために独立機関による調査（study）を行う。調査はニューヨークとロンドン先物市場に於ける国際コーヒー価格が現物市場の実態を反映しているかどうかを分析するもので、会議で議論された問題の解決策を提案するものとする。
5. アクションを進める為に委員会を組織するがその構成員は、アフリカ、メキシコ・中米・カリブ、南米及びアジア生産国地域から夫々生産者団体代表 2 名、北米、EU 及びアジアの産業界（industry）代表から夫々少なくとも 1 名とする。
6. この委員会は 2018 年 3 月に開かれる国際コーヒー機関（ICO）理事会の場で経過報告書を提出する。

7. 次回世界コーヒー生産者会議は 2019 年に開催することとするが、開催国については委員会が調整する。以上

(5) 主催者：コロンビアコーヒー生産者連合（FNC）の会議総括

全コーヒーバリューチェーンの代表が集まった第一回世界コーヒー生産者会議は、チェーンが抱える共通の問題へのアクションプランやその他の対策を含んだ最終宣言を採択し水曜日（12 日）閉幕した。

世界コーヒーバリューチェーン・ステークホルダーの共同責任に基づいて、また世界コーヒー機関（ICO）の支援によって作られるアクションプランにはその目的とそれを実現する時期及び必要な資金についての具体案が明記されることになった。

このアクションプランは、生産者への低価格、及び過度の乱高下（volatility：生産者以外のバリューチェーンリンクに利益が偏在する問題も含む）、気候変動への対処、労働不足、不活発な世代交代、農民の不安定な社会条件など世界の様々なコーヒー生産地域が直面する問題に基礎を置いたものでなければならない。

アクションプランは会議中に提案されたことや、独立した機関で作成されることになった、過去 40 年間の価格推移及び同期間の生産コスト及びその関連性の調査をベースとしたものとする。

この調査はニューヨークとロンドン先物市場の両市場で表される国際コーヒー価格が現物価格の実態を反映しているかどうかを分析し、会議中討論された問題の解決策として別の手段を提案するものである。

最終宣言では、このアクションプランは共同責任で遂行されるものであり、資金的な問題は産業界、ドナー、国際協力、国際機関、国及び地方政府の最高レベルで考えられるということが決議された。

行動計画を作成する為にアフリカ、メキシコ・中米・カリブ、南米、アジアの生産地域から夫々生産者団体代表 2 名及び、北米、欧州、アジア地域の製造業代表から夫々少なくとも 1 名からなる委員会を組織する。そして委員会は 2018 年 3 月に開催される ICO 理事会で経過レポートを提出する。

次回の生産者会議は 2019 年に開催することとするが、委員会が開催場所の選定を行うこ

ととする。現在開催地として3候補が立候補している。

今回の会議の主催者であるFNC総裁のロベルト・ベレス氏は、『世界のコーヒー産業が新しい仕組みに向けスタートを切った』ということであり、『我々は過去の反省、アイデアの収集、互いの意見の聴取を本日終了したが、それは我々が望むものを実現する為の入り口であり新たなステージに移行するということである。』と語った。

ベレス氏は更に生産者と消費者のこの新たな相互理解、協力、共同責任のあり方、即ち南北間の、また先進国と発展途上国間の新たな関係は、世界経済に新たな方向性を作る歴史的転換点になるかもしれないと言った。

これらが決議された背景には、低いコーヒー国際価格、低い生産性、気候変動と不安定性に関連する高生産コスト、収穫費用を含む労働コストの上昇などの為に生産者の収益性が低い若しくは赤字になっていることがある。

収益性が低い為にコーヒー生産者の多くが貧困生活を余儀なくされるもしくは少なくとも生活の質の低下（住環境、公共設備、教育、健康等において）に晒されており、農園への再投資が困難な状況になっている。

これらの問題を皆で協力して解決する為の行動を起こさない限り、世界コーヒー供給量は継続して減少することとなり、需要を賄えなくなり、コーヒー需給バランスの不均衡を招き、コーヒーのグローバルチェーンを危機に晒す結果となるのである。

最終宣言の精神は会議の主な結論及び提言を取り入れたものだが、それらのテーマごとに分かれたグループで夫々の参加者により活発に討議、分析、推敲されたものである。

会議のスピーカーには、元米国大統領ビル・クリントン氏、大学教授ジェフリー・サックス氏、ICO事務局長ジョゼ・セッチ氏、コロンビア、コスタリカ、ホンジュラス各国大統領、エルサルバドル副大統領、農業省大臣、全世界バリューチェーン（もちろんコーヒー生産者も含まれる）代表者など世界の重要人物も参加した。

以上